

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区名	鶴見区
学校名	茨田北中学校
学校長名	寺井 壽男

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学・理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- ※ 理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

(2) 質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・茨田北中学校では、第3学年 222名

平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率は、国語A・国語Bが全国平均より高く、理科が府平均より高い。数学A 数学Bは大阪市より低い。領域別に見ると国語Aでは「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「言語についての知識・理解・技能」は全国平均と並び、その他は全国平均より高い。国語Bは「話すこと・聞くこと」「書くこと」「話す・聞く能力」「読む能力」が全国平均より低い、「話す・聞く能力」を除いて府平均より高い。数学Aは、全ての領域で全国平均より低い、「数と式」「図形」「関数」は大阪市平均より高い。数学Bは、全ての領域で全国平均より低い、「資料の活用」は大阪市平均より高い。理科は「化学的領域」「地学的領域」で、全国平均より高く「生物的領域」をのぞき大阪市平均より高い。平均無回答率は、国語A・数学Aが全国より低い、国語B・数学B・理科は高い。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

成果 ・ A問題は概ね全国平均を上回り、B問題も「書くこと」「読むこと」をのぞいた領域で、全国平均を上回った。A問題の、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については他の領域と比べると正答率が低い。今後はよりいっそう古典教材の理解を深められるよう取り組む。

課題 ・ B問題の「書くこと」が全国より0.9ポイント低く、「読むこと」が0.5ポイント低い。書くこと」無回答率が7.2ポイントと高いため、授業でより積極的に書く能力を定着させられるように取り組む。

〔数学〕

成果 ・ 図形分野についてB問題の無解答率が21.8と高いが、A問題では1.1と低いのは、基本的な問題に積極的に取り組んでいる成果と思われる。

課題 ・ B問題の無解答率が高い傾向にあるので、基礎・基本を定着させ、学習したことを活用できるように取り組む。

〔理科〕

成果 ・ 化学的領域は全国よりも2.1ポイント、地学的領域は全国よりも1.2ポイント高い。

課題 ・ 生物的領域は全国よりも7.3ポイント低い。今後、観察をさらに多くとり入れ、基礎・基本の定着を図る。また、計算問題(濃度・密度・速さなど)を苦手とする生徒が多いので、繰り返し練習課題に取り組む。

質問紙調査より

生徒質問紙「家で、学校の宿題をしている」の設問で「している」「どちらかといえば、している」の割合は全国より5.4ポイント低く、「家で、授業の復習をしている」の割合は全国より17.9ポイントと低い。

また、「学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」の設問で、「30分より少ない」「全くしない」の割合が全国より13.8ポイント高い。

宿題等はほとんどの生徒が取り組むが、自ら学習する習慣・家庭学習の定着に課題が残る。

今後の取組

わかりやすい授業づくりをすすめ、放課後等を活用した自主学習の支援の充実を図る。指導方法の改善、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたり、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりする問いかけや発言をする時間の充実を図る。また、習熟度別少人数授業、家庭学習プリントを実施することで、家庭学習を促進できる取り組みを行っていく。

【 全体の概要 】

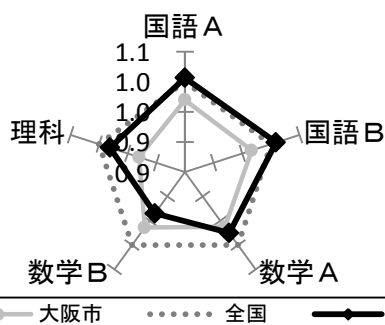
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
学校	76.3	66.4	62.8	38.9	52.0
大阪市	73.5	63.6	62.0	40.1	49.3
全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

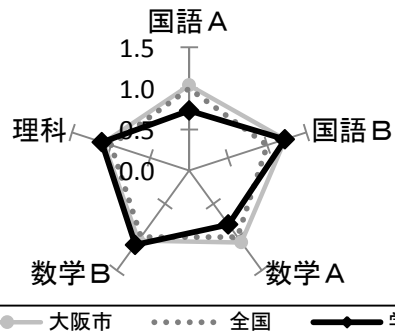
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
学校	1.9	2.7	3.0	17.1	7.8
大阪市	2.7	2.7	4.0	16.1	7.6
全国	2.6	2.2	3.7	15.3	7.0

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



【 国語 】

A 問題

平均正答率(%)

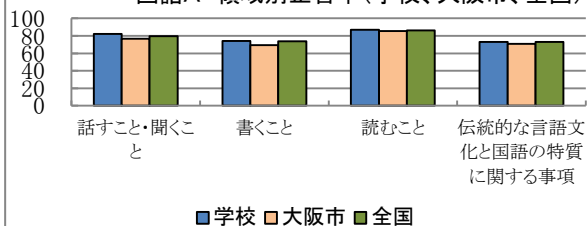
A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	82.1	76.6	79.7
	書くこと	5	74.0	69.3	73.6
	読むこと	5	87.0	85.5	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	19	72.9	70.7	72.9

B 問題

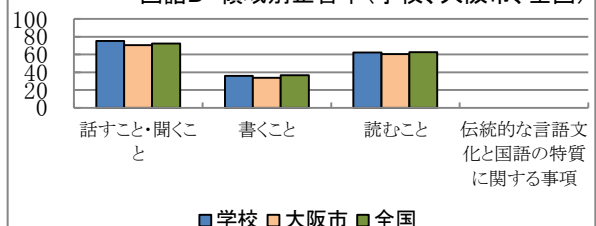
平均正答率(%)

B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	75.1	70.4	72.2
	書くこと	3	35.8	33.8	36.7
	読むこと	6	62.1	60.3	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—	—

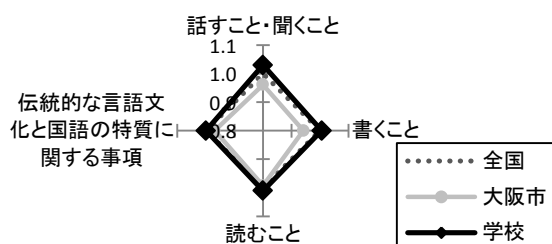
国語A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



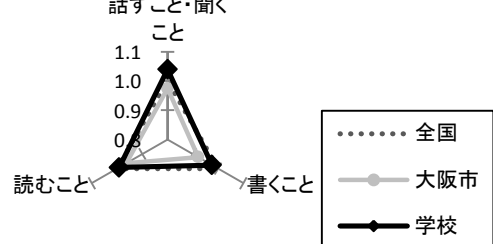
国語B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語A 領域別正答率(対全国比)



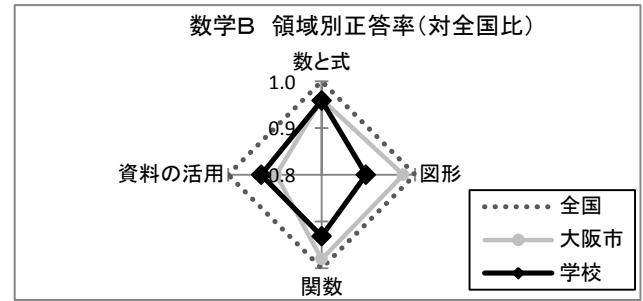
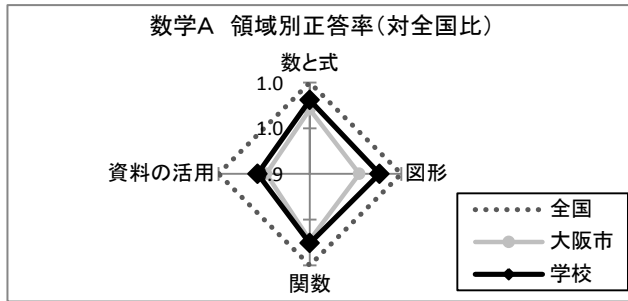
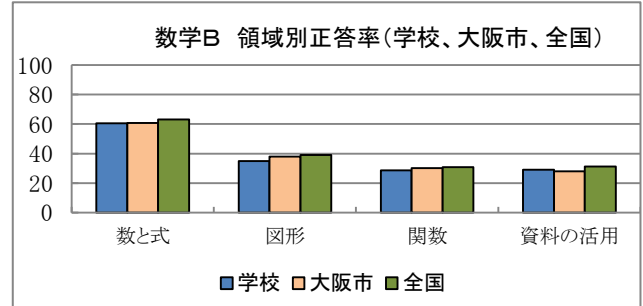
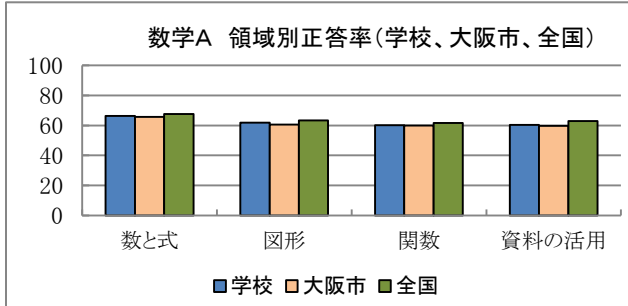
国語B 領域別正答率(対全国比)



【 数 学 】

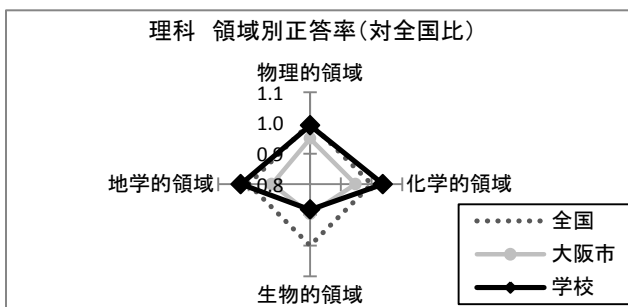
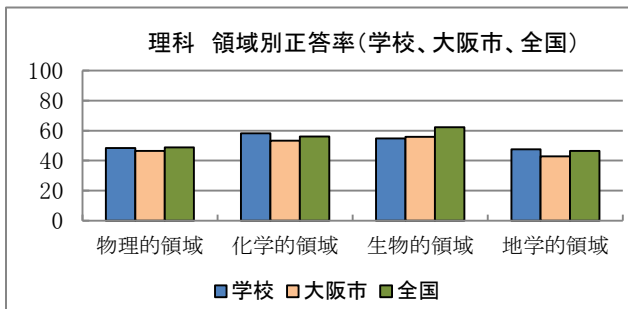
A 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	12	66.4	65.7	67.7
	図形	12	61.9	60.5	63.4
	関数	8	60.2	60.0	61.7
	資料の活用	4	60.3	59.7	63.0

B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	4	60.6	60.8	63.2
	図形	4	34.9	38.0	39.0
	関数	5	28.6	30.1	30.7
	資料の活用	2	29.0	28.0	31.2

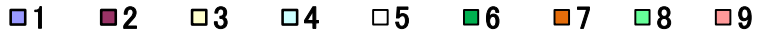


【 理 科 】

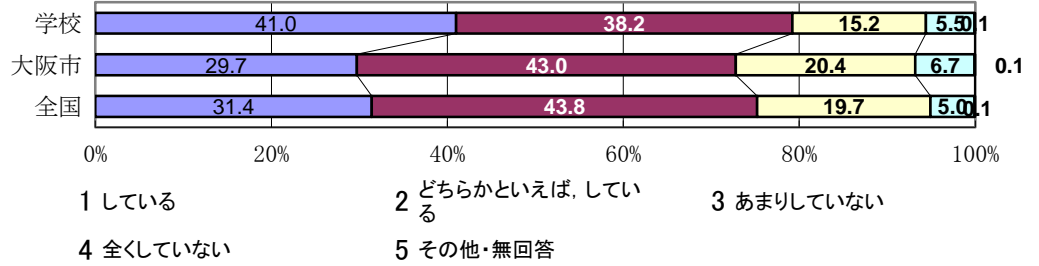
		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の 領域等	物理的領域	7	48.5	46.4	48.9
	化学的領域	7	58.3	53.3	56.2
	生物的領域	6	54.9	55.8	62.2
	地学的領域	6	47.6	42.9	46.4



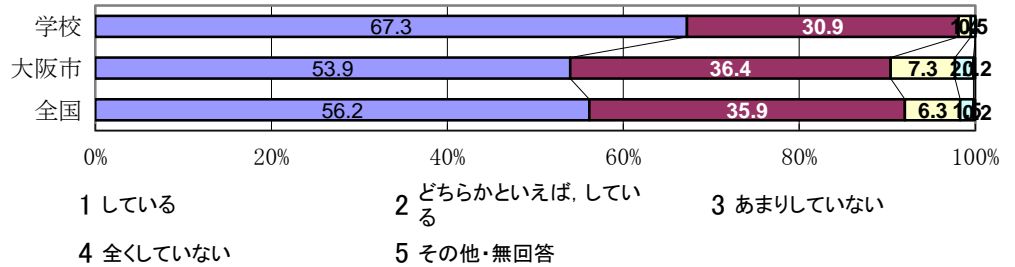
生徒質問紙より



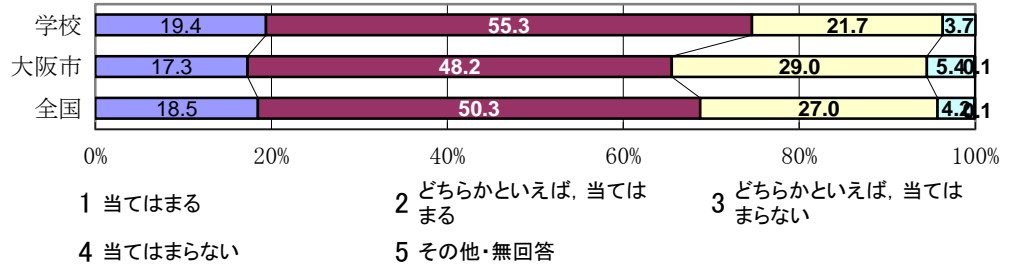
質問番号
質問事項
2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



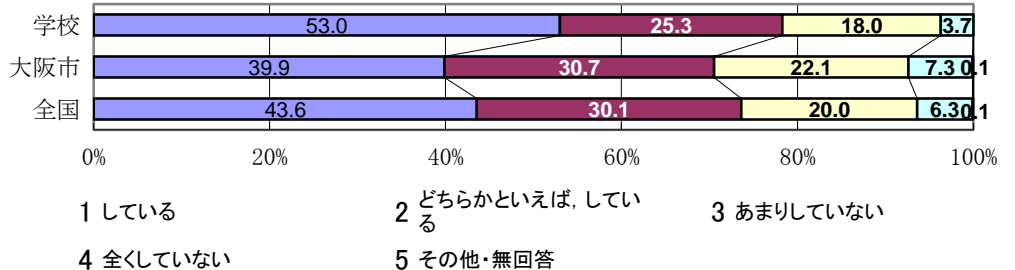
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



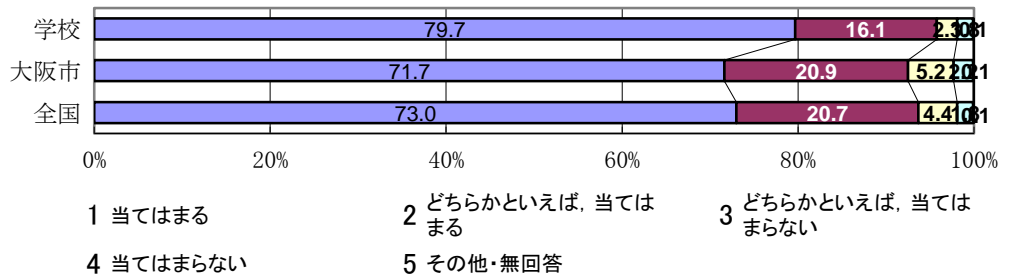
5
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか



18
家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか



34
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



学校質問紙より

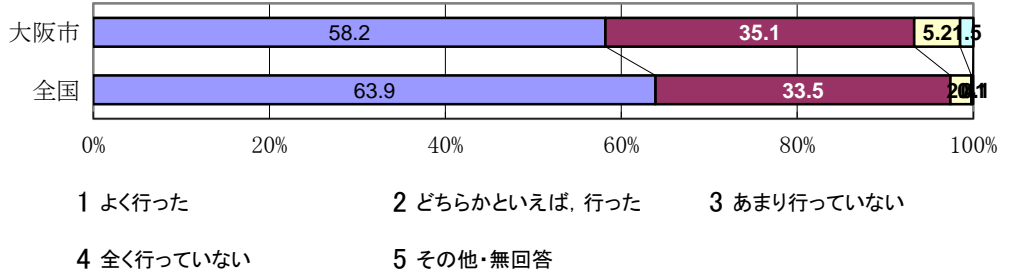
■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

44

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか

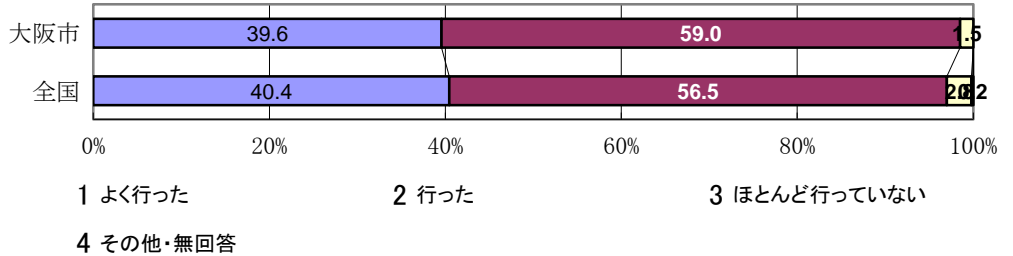
学校「よく行った」を選択



50

平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか

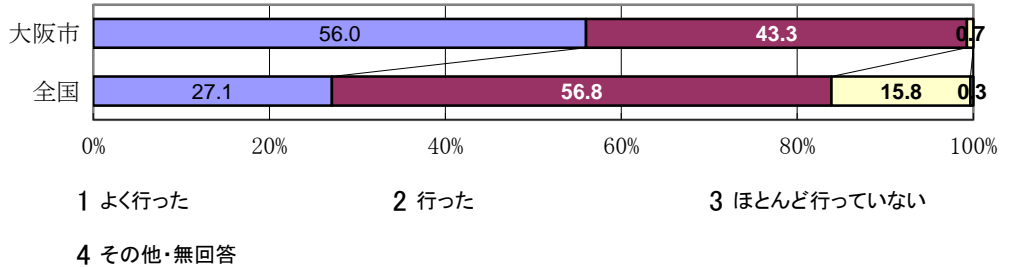
学校「行った」を選択



52

平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)

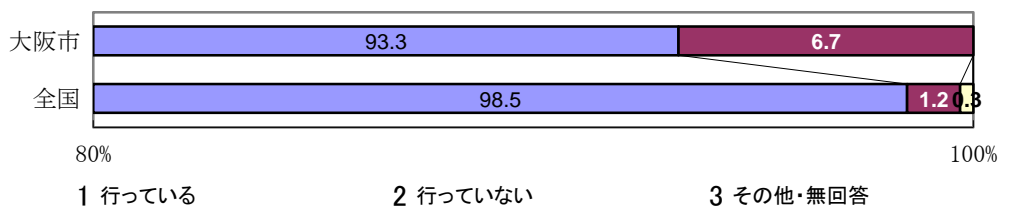
学校「行った」を選択



83

職場見学や職場体験活動を行っていますか

学校「行っている」を選択



101

授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか

学校「年間15回以上」を選択

